



○ ドローン

IT ビジネス学科の学習の関係で本校体育館の中でドローンを飛ばす情景を見学しました。それまでは、テレビの映像などで飛んでいるところや、墜落した「事件」のニュースを見たことはありましたが、私はこのたび初めて目の前に浮かんでいる状況を観察しました。

墜落したニュースの映像から感じていたこととこのたびの経験を比べてみて、私にとって一番の「実感」はその「重さ」でした。数kgあるそうですが、実物を見ると実感できますね。これは誰でも手軽に扱っていいものではないということが分かりました。ニュースのドローンはプラスチック製のように見えて、落ちてきても大したけがはしないだろうというような感覚でしたが、実物が直接落ちて来たら死亡しますね。

話は飛びますが、世界の紛争(戦争)の映像も同じだろうということも思いました。直接でないと実感はできにくいですね。(あつてはいけませんが、)

さて、話を保育のほうに当てはめてみます。本校では講義内容も工夫して、実践的な学びを提供しようとしていますが、学校の中で子どもたちと実際にふれあう機会はそう多くありません。物理的に難しければ、想像力が力を発揮するでしょう。本校独自の「きらり」の活動には週に一回子どもたちが集まってきます。まさに実感の場面なので貴重な時間です。ただ、学生たちは講義中なのでできても休み時間の10分間くらいですが。

私自身は時間が自由に使えますので、ふれあう機会をつくれます。先日は玄関のメダカに子どもたちが興味を示し、じっと見つめていたので“えさやり体験”を急きょ設定してみました。子どもたちの目の輝きが印象的でした。これから保育園・幼稚園での現場実習が始まります。学生たちにはたくさんの実感を体験してほしいと思っています。



暗幕で暗くして“夜間飛行”の訓練
まるでスターウォーズの一場面!

さて、ドローンに戻ります。「空を飛ぶ」ということは私にもあこがれがあります。鉄腕アトム・パーマン・オバQ・鉄人28号…、近くではナウシカ・トトロなどのアニメーションを見るたびに想像の世界が広がっていきます。自分が子どものころは夢で飛んでいましたが、情けないことに平泳ぎで高さはせいぜい10mくらいまででした。そういえば宮崎アニメでも同じような飛び方をしている少女がいましたね。

最後に、今回出会った“パイロット”の方のお話の中で、「空撮する場面では構想力と計画性、映像の構成センスが大切です。」というようなものがありました。実感できない部分のシミュレーション力はいろいろな場面、いろいろな仕事でも大切な能力なのだとことを考えました。

自校自賛

27日(土)のオープンキャンパスに参加してくれた学生スタッフの紹介です。1年生の村田さん、2年生の重国さん、村田さんです。今回は紙工作のおもちゃづくりでした。ブーメランや紙コプターなどを楽しく作りま

した。(上記とつながった!)参加者の皆さんは紙でいろいろなものができる驚きを感じることができたと思います。私は当日所用があり、参加できなかったことが残念でした。

